

草の発生活長 (1)アレチウリ. 植調 48(1), 19-24.
 徐錫元 2014b. 田畑輪換圃場における問題帰化
 雑草の発生活長 (2)ホシアサガオとマルバアメ
 リカアサガオ. 植調 48(2), 45-53.
 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 2001.日本帰化植物

写真図鑑. 全国農村教育協会, 東京, pp.242-250.
 渡邊寛明・澁谷知子・黒川俊二 2009. 大豆作お
 よびその周辺におけるアサガオ類等帰化雑草の
 発生活態に関する調査報告書. 中央農業総合研
 究センター. pp.2-17.

植調誌に寄せられた読者からの便り

水稻品種「農林1号」と並河顕彰を読んで

福岡県筑後農林事務所南筑後普及センター 参事 三角孝幸

植調誌 2014 年第 47 巻第 12 号の巻頭言の
 “水稻品種「農林1号」と並河顕彰”(種田貞
 義氏寄稿)を読んで感動しました。このよ
 うな逸話は、恐らく遠く離れた地方に住む人は
 ほとんど知らないことだと思いますが、良い
 内容に感動し、自分自身に思うところがあり、
 感想をしたためてみました。

記事では、水稻「農林1号」の育成者である
 並河成資氏が研究上の悩みから享年 41 才
 の若さで不慮の死を遂げたこと、その死から
 12 年後に湧き上がった「3 人の遺児の救済」
 と「その功績を基にした顕彰事業」を目的に、
 市民までも巻き込んだ募金活動の広がりが
 紹介されています。

実は、私も仕事の上で色々とストレスを受
 けた時期がありましたので、並河氏の身の上
 には、身に詰まされる思いになります。そして、
 このような研究者を称える声が社会的運動に
 まで高まり、本当の意味での「浄財」が集ま
 った力は、技術者の端くれとして、他人事であ
 っても誇らしく感じます。

ところで、今年 2 月、二宮尊徳の 7 代目の
 子孫である中桐万里子氏(関西学院大学講師)
 の講演を、地元で拝聴しました。この中で、

印象に残ったことは、「宝物(たからもの)」
 とは、「田(た)からの贈り物(もの)」とい
 う意味であることや、尊徳像の姿が、「勤勉さ」
 「野良仕事の大切さ」に加え、「一步を踏み出
 す勇氣」を表していることを教わりました。
 この講演は、地元の小学校も参加していたの
 で、彼らや彼女らなりに感動したのではない
 かと思います。

このような農にまつわる逸話は、どしどし
 広めてもらいたいです。大きな節目に来てい
 る日本の農業に、新風を吹き込むことになると
 期待しています。

最後に、私の勤める南筑後普及指導センター
 は、筑後川と矢部川の下流域で、米・麦・大
 豆と園芸品目(ナス、イチゴ、アスパラガス
 及び温州ミカンが主)の生産が盛んな純農村
 地帯にあります。また、有明海を臨み、作曲家・
 古賀政男、詩人・北原白秋や、柳川の川下り、
 沿岸地区の養殖海苔生産が有名です。34 名の
 普及指導員が、本県のスローガン「幸福度日
 本一の県を目指して県政を推進しよう」のも
 と、日本一の普及事業を目指すべく頑張っ
 ております。